

栃木県がん教育総合支援事業（文部科学省委託事業）

# 栃木県がん教育ガイドライン

（令和7年3月改訂）



栃木県教育委員会

# はじめに

近年、私たちを取り巻く社会情勢や生活環境は急激に変化し、国民の心身の健康にも大きな影響を与えており、ストレスによる心身の不調などのメンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患、感染症など、様々な課題が顕在化しています。その中でも、がんは、生涯のうち国民の二人に一人が罹患する状況を踏まえると、学校においてがん教育を推進することは、健康教育の充実を図る上で大変有意義なことです。

本ガイドラインは、平成30年度から令和2年度に文部科学省の委託事業である「がん教育総合支援事業」の一環として設置した「栃木県がん教育推進連絡協議会」において、栃木県医師会、がん専門医、がん経験者、大学等の有識者の御協力を得て作成しました。令和3年度以降は、本ガイドラインに基づき外部講師等を効果的に活用した学校におけるがん教育が一層推進されることを期待しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、学校における外部講師による講話等を実施することが困難な状況となっておりました。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行され、現在は、基本的な対策を施しながら通常の学校教育活動が実施されております。そこで、改めて、これまでの成果を踏まえ、外部講師等を活用したがん教育の充実を図るため、令和6年度から文部科学省の「外部講師を活用したがん教育等現代的健康課題理解増進事業」を活用して、がん教育の効果的な実施に関する取組の検討を行い、県立学校への外部講師の派遣、外部講師活用の体制整備、外部講師や教員等を対象としたがん教育研修会等を実施しました。

特に、外部講師の活用については、学校行事の調整や授業時数の確保等の課題を克服するため、がん専門医等による講話の映像教材を作成することで、様々な調整が不要となり学校の実情や授業の展開に合わせて外部講師の講話の視聴が可能となるよう整備しました。

また、令和3年度以降のがん対策に係る動向においては、国の「第4期がん対策基本推進計画」（令和5年3月）、「栃木県がん対策推進計画（第4期計画）」（令和6年度～令和11年度）が策定されていることを踏まえ、令和6年度に実施したがん教育に係る取組内容、外部講師を効果的に活用する際のポイントや留意事項、映像教材を含む最新の指導参考資料を掲載するなど、一部内容の見直しを行いました。

各学校において、本ガイドラインを活用し、組織的かつ計画的にがん教育が推進されることを期待しております。

最後に、本ガイドラインの作成に当たり、御指導・御協力を賜りました栃木県がん教育推進協議会委員及び関係者の皆様に、感謝申し上げます。

令和7年3月  
栃木県教育委員会

# も く じ

## I 学校おけるがん教育

- 1 がん教育とは ..... 1
- 2 がん教育を実施する上での留意事項
  - ① 学校教育活動全体での推進
  - ② 発達の段階を踏まえた指導
  - ③ がん教育で配慮が必要な事項
  - ④ 外部講師との連携

## II がん教育展開例

- 1 中学校展開例 ..... 15
- 2 高等学校展開例

## III がん教育の成果

- 1 実施校におけるアンケート集計結果 ..... 28
- 2 外部講師による講話後の生徒の感想

## IV 指導参考資料・教材

- 1 がん教育推進のための教材 ..... 32 (文部科学省)
- 2 がん教育推進のための教材 指導参考資料 (文部科学省)
- 3 外部講師を活用したがん教育ガイドライン (文部科学省)
- 4 がん教育に関する映像教材 (栃木県教育委員会)

## 作成協力等 ..... 33

引用及び参考文献

健康教育総合推進事業実施校

栃木県がん教育推進協議会委員

# I 学校におけるがん教育

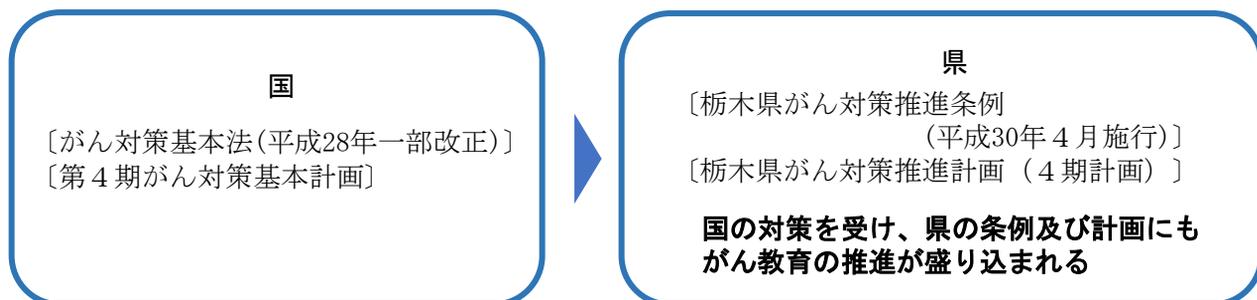
## 1 がん教育とは

近年、疾病構造の変化や高齢社会など、児童生徒を取り巻く社会環境や生活環境が大きく変化してきており、健康教育もそれに対応したものであることが求められている。特に、日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であると指摘されている。学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようにすることが求められている。

そのような状況等を踏まえ、国では、平成28年12月に一部改正されたがん対策基本法において、「がんに関する教育の推進」を新たに定め、第4期がん対策推進基本計画(令和5年3月閣議決定)では、「がん教育及びがんに関する知識の普及啓発」を示した。

また、文部科学省では、平成29年3月に告示された中学校学習指導要領及び平成30年3月に告示された高等学校学習指導要領の保健体育科において、新たにがんについても取り扱うことを明記し、学校における健康教育の一環として、全国的にがん教育が実施されることとなった。

### 国と県のがん対策 (詳細については次ページ参照)



### がん教育の定義

がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。

### がん教育の目標

#### (1) がんについて正しく理解することができるようにする

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

#### (2) 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

## 【参考 国と県のがん対策】

### 国の対策

#### がん対策基本法（平成28年12月一部改正）

〔がんに関する教育の推進〕

第23条 国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。

#### 第4期がん対策基本推進計画（令和5年3月閣議決定）

〔がん教育及びがんに関する知識の普及啓発〕

こどもが健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理するとともに、がんに対する正しい知識、がん患者への理解及び命の大切さに対する認識を深めることが大切である。これらをより一層効果的なものとするため、医師やがん患者・経験者等の外部講師を活用し、こどもに、生活習慣や遺伝子等のがんの発生に関する基本的な情報も含めた、がんの正しい知識やがん患者・経験者の声を伝えることが重要である。

### 県の対策

#### 栃木県がん対策推進条例（平成30年4月1日施行）

第19条 県は、県民ががんに関する正しい知識及びがん患者等に関する理解を深めることができるよう、市町村、拠点病院、医療関係団体、患者団体等と連携し、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進を図るために必要な施策を講ずるものとする。

#### 栃木県がん対策推進計画（第4期計画）（令和6年度～令和11年度）

##### ○今後の取組

- ・栃木県がん診療連携協議会、患者団体、市町等と連携し、学習指導要領に基づき、がんに関する授業等を行います。
- ・教員や外部講師を対象にした研修の実施、使用する共通の教材の作成等、学校におけるがん教育の推進のために必要な環境の整備を図ります。

##### ○目 標（目標値）

項目	2人に1人ががん罹患することを知っている県民の割合	全がんの5年相対生存率が50%を越えていることを知っている県民の割合
計画策定時 H28(2016)年度	26.9%	22.6%
直近値 R4(2022)年度	45.3%	26.4%
目標値 R11(2029)年度	上昇	上昇

基準：「栃木県政世論調査」

## 2 がん教育を実施する上での留意事項

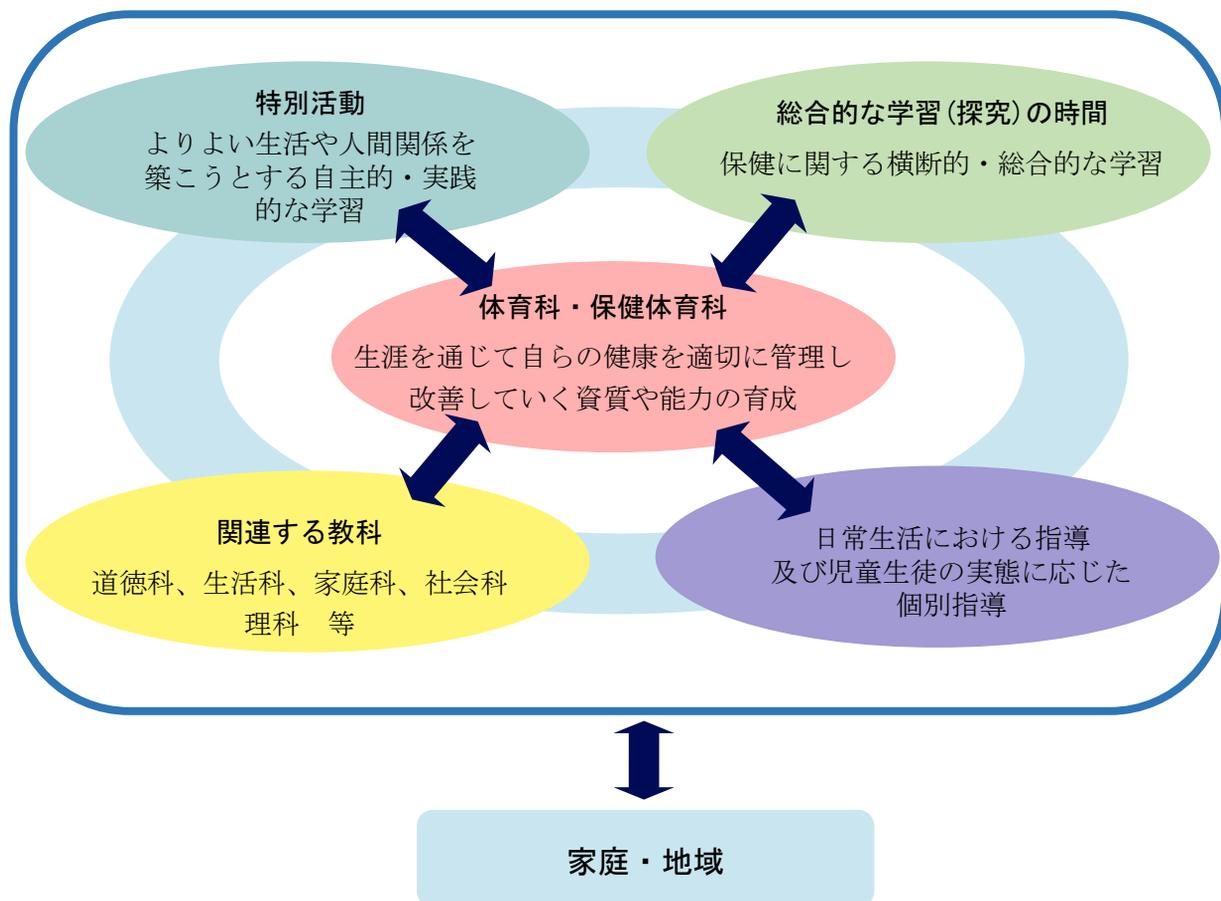
### ① 学校教育活動全体での推進

がん教育の実施に当たっては、がん教育が健康教育の一環として行われることから、学習指導要領総則第1-2-(3)を踏まえ、体育科・保健体育科を中心に、学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切である。また、家庭や地域社会との連携を図りながら、生涯にわたって健康な生活を送るための基礎が培われるよう配慮する。

#### 【中学校学習指導要領 総則（抜粋）】

第1-2-(3) 学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

#### 【学校教育活動全体で取り組むがん教育のイメージ】



## 【参考 学校におけるがん教育取組事例】

### 保健の学習

○体育科・保健体育科による保健の授業



### 特別活動

○外部講師によるがんに関する講演会の実施（医師やがん経験者等）



○学校祭におけるがんに関する展示・クイズコーナーの設置やがんに関連付けた取組

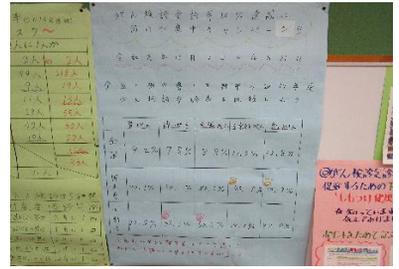
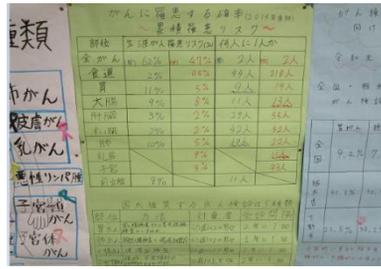


○保健委員会におけるがん教育に関する協議や生徒集会における保健委員会生徒による取組発表



## 総合的な学習（探究）の時間

○健康などの現代的な諸課題として、がんを取り扱った調べ学習

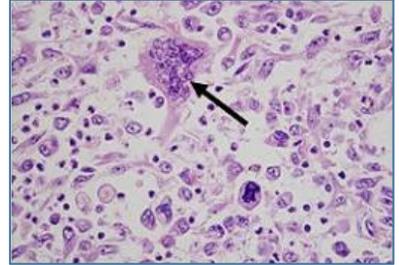


## 関連する教科

【道徳科】がんを題材とした生命尊重の授業



【理科】たばこ等と関連させた発芽実験や細胞の学習におけるがん細胞の取扱い



【家庭科】がん予防と食品に関連付けた学習



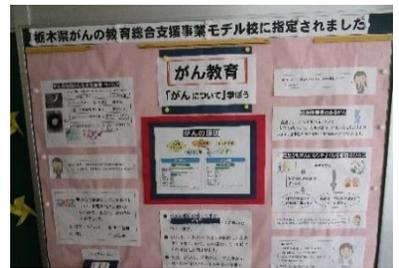
【社会科】保健所の役割等の学習におけるがん検診の取扱いやがんと偉人を関連付けた学習

胃がん検診 ※2	選択	胃部X線検査 胃内視鏡検査
大腸がん検診		便潜血反応検査(検便)
肺がん検診		胸部X線検査 胸部X線検査 喀痰検査(細胞診) ※3
乳がん検診 ※4		マンモグラフィ検査 乳房超音波検査併用 視触診
子宮がん検診 (妊婦の方は妊婦健診が優先となります。)		頸部細胞診
前立腺がん検診		頸部・体部細胞診 ※5 血液検査

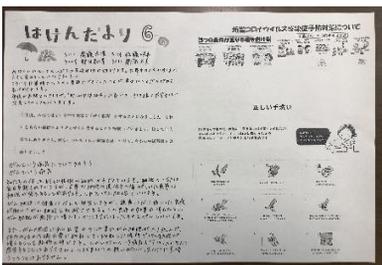


## その他の関連した取組事例

○がんに関する図書コーナーの設置



○保健だよりによる保護者への周知や啓発



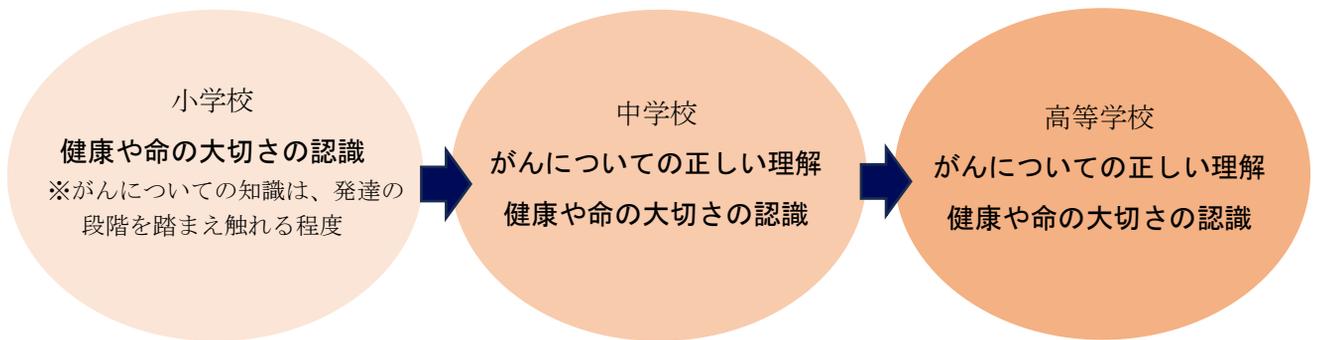
○給食だよりによる啓発やがん予防献立の実践



## ② 発達の段階を踏まえた指導

がんに関する科学的根拠に基づいた理解については、主として中学校・高等学校において取り扱うことが望ましい。健康や命の大切さについては、小学校を含むそれぞれの校種で発達の段階を踏まえた内容での指導が望ましいと考えられる。

また、児童生徒の家族にがん経験者がいる場合や、家族をがんで亡くした児童生徒がいる場合、さらには、児童生徒本人が小児がんの当事者である場合を踏まえ指導する必要がある。これらの情報を学校がすべて把握しているとは限らないため、該当する児童生徒がいる可能性を常に念頭において指導計画を立てるとともに、配慮を要する児童生徒には保護者も含めた個別指導を実施するなど、家庭との連携を図ることも重要である。



### 【参考 体育科・保健体育科における保健の学習の体系】

小学校 体育科保健領域		中学校 保健体育科保健分野			高等学校 保健体育科「科目保健」
3・4年	5・6年	1年	2年	3年	入学年次及びその次の年次
身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容		個人生活における健康・安全に関する内容			個人及び社会生活における健康・安全に関する内容
健康な生活	体の発育・発達	健康な生活と疾病の予防	心身の機能の発達と心の健康	傷害の防止	現代社会と健康
	心の健康			健康と環境	安全な社会生活
	けがの防止				生涯を通じる健康
	病気の予防				健康を支える環境づくり

「生きる力」を育む中学校保健教育の手引（文部科学省R2.3）

## 【学習指導要領におけるがんの取扱い】

### ○ 小学校〔第6学年〕

教科：体育科（保健領域）

※ 小学校については、保健領域においてがんについて取り扱うことは記載されていないが、下記の部分等でがんについて触れることが考えられる。

### 【学習指導要領 H29.3 告示抜粋】

#### G 保健

#### (3) ア 病気の予防について理解すること。

- (ウ) 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、適切な運動、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
- (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。

### 【学習指導要領解説抜粋】

#### (ウ) 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防

生活行動が要因となって起こる病気として、心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気、むし歯や歯ぐきの病気などを適宜取り上げ、その予防には、全身を使った運動を日常的に行うこと、糖分、脂肪分、塩分などを摂りすぎる偏った食事や間食を避けたり、口腔の衛生を保ったりすることなど、健康によい生活習慣を身に付ける必要があることを理解できるようにする。

#### (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

- ㊦ 喫煙については、せきが出たり心拍数が増えたりするなどして呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること、受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。また、喫煙を長い間続けるとがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。

○ 中学校〔第2学年〕

教科：保健体育科（保健分野）

※ 下記の部分等でがんを取り扱う

【学習指導要領 H29.3 告示抜粋】

2 内容

(1) 健康な生活と疾病の予防

ア-(ウ) 生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。

【学習指導要領解説抜粋】

(ウ) 生活習慣病などの予防

㉞ 生活習慣病の予防

生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できることを、例えば、心臓病、脳血管疾患、歯周病などを適宜取り上げ理解できるようにする。

その際、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足、喫煙、過度の飲酒などの不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、やせや肥満などを引き起こしたり、また、心臓や脳などの血管で動脈硬化が引き起こされたりすることや、歯肉に炎症等が起きたり歯を支える組織が損傷したりすることなど、様々な生活習慣病のリスクが高まることを理解できるようにする。

生活習慣病を予防するには、適度な運動を定期的に行うこと、毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを整えること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であることを理解できるようにする。

㉟ がんの予防

がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。

また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解できるようにする。

なお、㉞、㉟の内容と関連させて、健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できることなどを取り上げ、疾病の回復についても触れるように配慮するものとする。

○ 高等学校

教科：保健体育科（科目保健）

※ 下記の部分でがんを取り扱う

【学校学習指導要領 H30. 3 告示抜粋】

3 内容

(1) 現代社会と健康

ア-(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること。

【学習指導要領解説抜粋】

ア-(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。

その際、がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。がんの回復においては、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて適宜触れるようにする。

また、生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。

なお、日常生活にスポーツを計画的に取り入れることは生活習慣病などの予防と回復に有効であること、また、運動や食事について性差による将来の健康課題があることについて取り上げるよう配慮する。

### ③ がん教育で配慮が必要な事項

がん教育の実施に当たっては、授業の実施前までに以下のような事例に該当する児童生徒の存在が把握できない場合についても授業を展開する上で配慮が求められる。

- 小児がんの当事者、小児がんにかかったことのある児童生徒がいる場合
- 家族にがん患者がいる児童生徒や、家族をがんで亡くした児童生徒がいる場合
- 生活習慣が主な原因とならないがんもあることから、特に、これらのがん患者が身近にいる場合
- がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある児童生徒や、家族に該当患者がいたり家族を亡くしたりした児童生徒がいる場合

なお、下記に配慮の例を記載したが、一定の配慮をすればそれで解決するようなものではなく、どのような配慮が一番よいかを身近な教員や学校が判断し、こまめな振り返りによりその配慮について再検討する必要がある。また、小児がんの当事者が在籍するような場合は、延期したり内容や方法を検討する必要がある。

#### 【学校における配慮の例】

- がん教育を行うことを事前に保健だより等で保護者に周知を図る。
- 事前に家庭からの情報を得るなど、個別指導の必要な児童生徒を把握する。
- 小児がんの当事者、小児がんにかかったことがある児童生徒がいる場合、事前に保護者や本人に了解を得た上でがん教育を行う。
- 家族にがん患者がいる児童生徒が在籍している場合、その児童生徒に対して、つらくなら退席してもよい旨の事前指導を行う。
- 授業を受けたくない場合は、別室で学習させるなど、必要な配慮ができる体制や環境を整備する。
- 養護教諭等とともに指導するなど複数体制にする。
- 児童生徒の様子から、声かけや必要に応じて個人面談を実施する。

#### 【発言等における注意事項】

- がんは、生活習慣がもととなっている病気（生活習慣病）と強調しすぎることにより、がんにかかった人は生活習慣が乱れた悪い人という誤解を与えないよう注意する。
- がんの要因のひとつに細菌やウイルス感染があるが、がんはうつるという誤解を与えないよう注意する。
- 遺伝要因が関与するがんもあることから、がんは遺伝するという誤解を与え、身内にがん経験者がいる場合等に過度の不安を与えないよう注意する。
- 「がんは不治の病である」「がんは簡単に治せる」など科学的根拠に基づかない極端な情報を与えないよう注意する。
- 生活習慣を改善することにより、かかるリスクを減らせるがんもあるが、遺伝要因が関与するものなど、本人自身で回避できない要因があることを明確に伝える必要がある。
- 本人に限定されるような内容に特化しないように、事例を一般化するなど工夫する。

#### ④ 外部講師との連携

がん教育の実施に当たり、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるためには、がんに関する外部講師との連携が効果的となる。

がんに関する科学的根拠に基づいた知識などの専門的な内容を含むがん教育を進めるに当たっては、地域や学校の実情に応じて、学校医やがんの専門医等の外部講師の参加・協力などが効果的と考えられる。また、がんを通して健康と命の大切さを考える教育を進めるに当たっては、がん患者・経験者等の外部講師の参加・協力が効果的と考えられる。

その際、例えば、各教科担任が実施する授業と、専門家等の外部講師の協力を得て実施する学校行事等に関連させて指導することでより成果を上げるよう留意する。

##### 【外部講師を活用したがん教育の進め方の基本方針】

###### (1) 講師の専門性が十分に生かされるよう工夫する。

地域や学校の実情に応じて、学校医、がん専門医（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン、がん診療連携拠点病院の活用を考慮）、がん患者、がん経験者など、それぞれの専門性が十分に生かせるような指導の工夫を行い、教員と十分な連携のもと外部講師を活用したがん教育を実施する。

###### (2) 学校教育活動全体で健康教育の一環として行う。

保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切である。学級担任や教科担任、保健主事などが中心となって健康教育の一環として企画するものであり、必要に応じ、養護教諭とも連携する。また、家庭や地域社会との連携を図りながら、生涯にわたって健康な生活を送るための基礎が培われるよう配慮する。

なお、効果的な指導を行うためには、学校保健計画に位置付けるなどして計画的に実施することが望ましい。

###### (3) 発達段階を踏まえた指導を行う。

小学校では、主としてがんを通じて健康と命の大切さを育むことを主なねらいとする。中学校、高等学校では主として、科学的根拠に基づいた理解をすることを主なねらいとする。その際、各校種のねらいを踏まえ、発達段階を考慮し、外部講師を活用したがん教育を行うなどの工夫を行う。

##### 【講師の専門性】

###### 学校医

従前から学校との関係性がある医学的専門家。がん教育以外についても学校における諸般の保健管理に関する専門的事項に関しての指導者であり、総合的に関係性を構築しやすい。

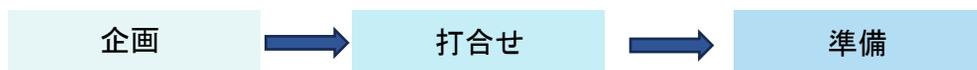
###### がん専門医

医師の中でも特にがんの専門家。がんの手術や緩和ケア等にも携わる経験を持ち、更に深い知識を得ることに有効であると考えられる。

###### がん患者・経験者

実際にがんを経験している。自己の経験談等から、自他の健康と命の大切さに気づき、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度の育成を図ることができると考えられる。

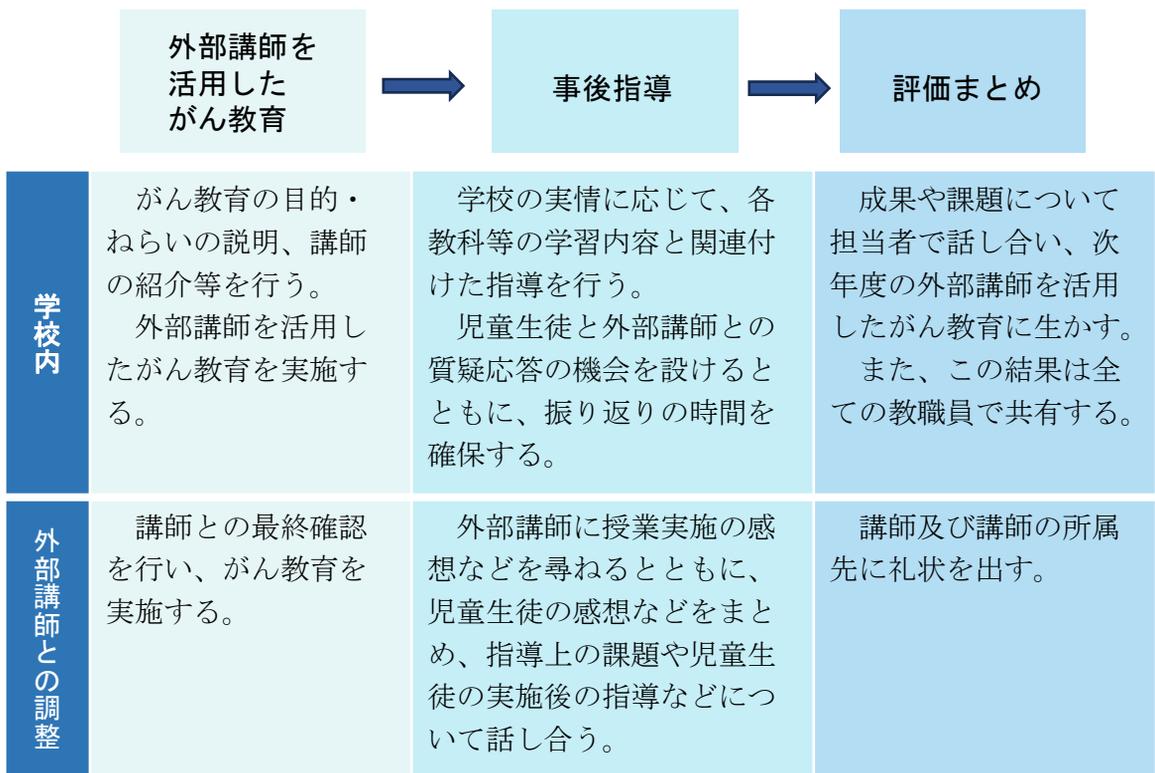
## 【外部講師を活用したがん教育実施上の手順（例）】



	企画	打合せ	準備
学校内	<p>保健主事や授業を担当する保健体育科教諭や学級担任などを中心に核となる教員を決め、関係教職員と連携しつつ、外部講師を活用したがん教育を企画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> どんなテーマで</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> いつ</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> だれを講師に</li> </ul>	<p>外部講師を活用したがん教育の実施に向けて、教職員の共通理解を図り、実施内容等について話し合う。</p> <p>また、教科書やがん教育にかかわるビデオ、パンフレットなどの資料を準備し、外部講師を活用したがん教育の講師予定者との打合せに備える。</p>	<p>当日児童生徒に配布する資料や使用する視聴覚機材を準備する。必要な場合には事前学習・事前指導等を行う。</p>
関係者との調整	<p>外部講師を活用したがん教育の企画に合わせて、関係機関に講師の派遣を依頼する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事前打診</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 正式依頼状送付</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 打合せ日程調整</li> </ul>	<p>外部講師を活用したがん教育の講師予定者と当日の指導内容や指導方法について打合せを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 詳細な日程</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 講師と学校の役割分担</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 準備品等</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 指導上の留意事項の確認</li> </ul>	<p>資料や視聴覚機材についての最終確認を行う。講師と教員との役割分担についても確認する。</p>

### ポイント

- 学校が主体となって企画・運営を行う。
- 核となる教員や授業を担当する教員だけがかかわるのではなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- 学校での取組内容を保護者や関係機関などに周知・共有することにより、連携体制を構築する。
- 年度当初の職員会議等で、「学校保健計画」に基づき外部講師を活用したがん教育の開催予定を周知するなど、情報を共有する。



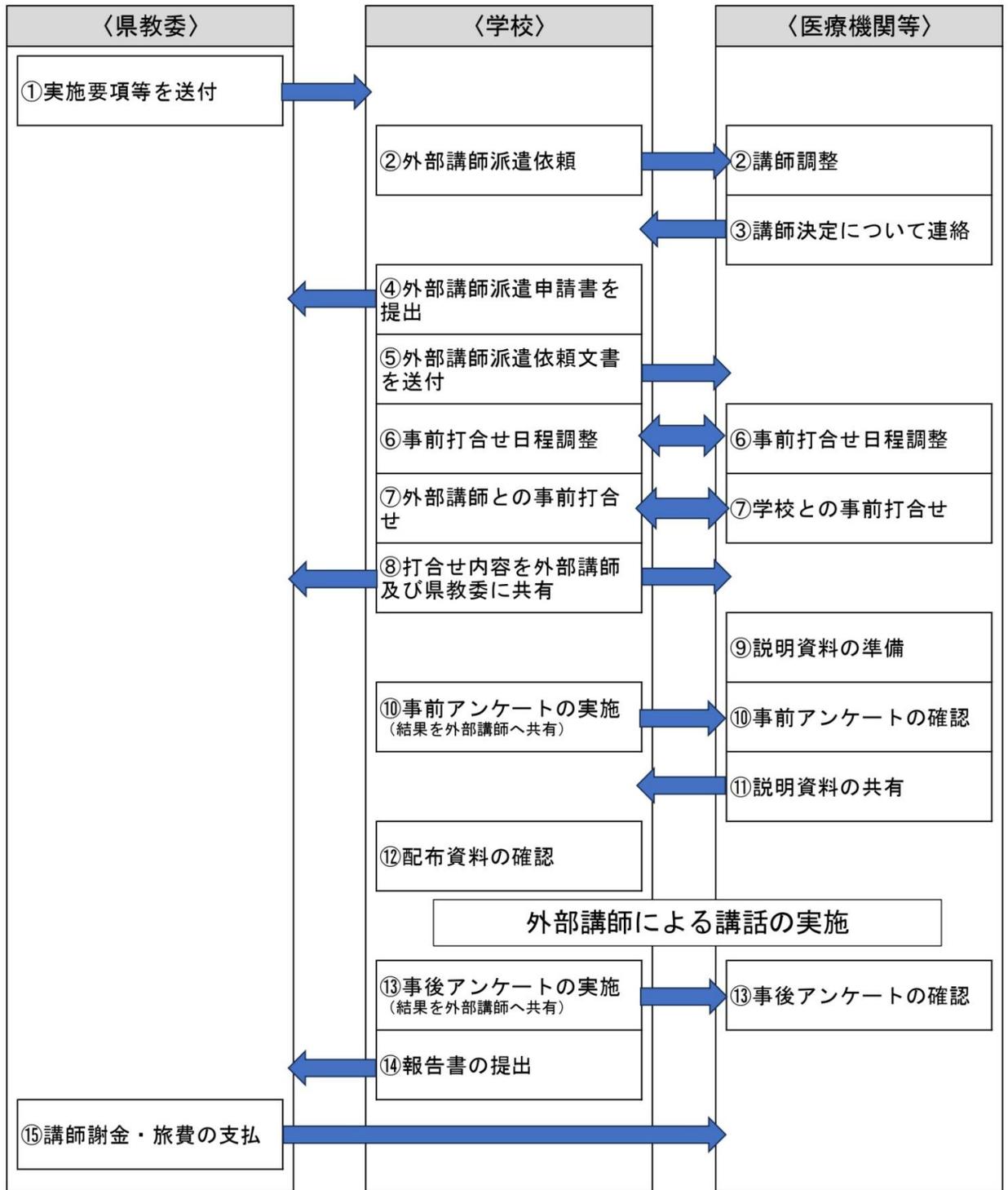
## 👉 ポイント

- 外部講師は、それぞれの専門性は備えていても、児童生徒に対する教育指導に関しては専門家ではないので、事前に講師候補者と学習指導上の留意点について共有する。
- 外部講師との連携は重要であるが、授業計画の作成に当たっては、授業を企画する教員が主体となるよう留意する。
- がん患者・経験者の体験談は貴重であるが、家族に経験者がいる場合などには強い印象を与える可能性があることに留意する。
- 教員と外部講師は事前事後で打合せを行うことで授業のねらいを押さえ、教育効果を高められるよう留意する。

### 【外部講師の皆様へ】

- 7～9ページの学習指導要領の抜粋を御参照の上、講師が伝えたい内容で一方的に構成したり、児童生徒が理解できない難解な言葉（専門用語）を用いたりするのではなく、対象となる児童生徒の興味、関心や理解力など、発達段階を踏まえた内容で御指導願います。
- 現在及び将来に直面する可能性のあるがんに関する課題に対して、適切な思考・判断を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択ができるよう御指導願います。
- がん教育の二つの目標を達成するために、がんを通して健康や命のかけがえのなさに気付き、がん患者や家族などのがんと向き合う人々の取組に関心をもつとともに、健康な社会の実現に努めることができるよう御指導願います。
- 10ページの「③ がん教育で配慮が必要な事項」を御参照の上、児童生徒に配慮した内容で御指導願います。

がん教育における外部講師を依頼する際の流れ



## Ⅱ がん教育展開例

### 1 中学校展開例

#### 中学校展開例 1

##### ○指導の流れ

時数	教科等	単元等	ねらい
1 / 4	保健体育科 保健分野	健康な生活と疾病の予防 「生活習慣病などの予防」 (生活習慣病の予防)	健康は生活行動と深く関わっており、 調和のとれた生活を続けることが必要 であることを理解する。
2 / 4	特別活動	医師による がんに関する講話	がんについての正しい知識を習得し、 理解を深める。
3 / 4	保健体育科 保健分野	健康な生活と疾病の予防 「生活習慣病などの予防」 (がんの予防)	がんについて正しく理解し、今後の 自分の生活について考えることができ る。
4 / 4	特別活動	がん経験者による がんに関する講話	がん患者に対する正しい認識と、健 康と命の大切さについて理解を深める。

##### ○3 / 4 保健体育科 保健分野指導展開例

学習の流れ	留意点
<p><b>【導入】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習内容について確認する。</li> <li>○ 本時のねらいを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>がんについて理解し、今後の生活について考えよう。</p> </div> <p><b>【展開】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ がんについて理解を深める。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本のがんの現状 日本人の2人に1人ががんにかかり、3人に1人が亡くなっていることを知る。</li> <li>・ がんの仕組み 細胞分裂の際に細胞が変異して悪性になったものをがんということを理解する。</li> <li>・ がんの原因 がんの原因として分かっているものは、生活習慣、感染、遺伝などであることを知る。</li> </ul> </li> </ul> <p>※参考となるスライド教材</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>がんになる人の割合</p> <p>2人に1人</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>修復のしくみが動かないとき</p> <p>異常な細胞ができる</p> <p>異常な細胞が増えてかたまりになる</p> <p>悪性のものをがんという</p> <p>周りに広がりやすくなり血管などに入り込んで全身に広がる</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>がんによる死亡数</p> <p>3人に1人ががんで亡くなっている</p> <p>がんによる死亡数は増え続けている</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>がんの原因</p> <p>がんには原因のわかっているものとわからないものがある</p> <p>細菌・ウイルス</p> <p>生活習慣</p> <p>遺伝的要因</p> <p>不明</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活習慣病全般や授業前に実施された医師による講話に触れ、本時はがんについて学習することを説明する。</li> <li>○ がんのイメージについて触れる。</li> <li>○ 身近な人をがんで亡くしている生徒や身近にがん患者がいる生徒に対する配慮をしながら授業を行う。</li> <li>○ 生徒の様子や表情を観察し、不安や悩みを可能な限り把握する。</li> <li>○ がんについてスライド資料を使い説明する。</li> <li>○ がんの原因には主に生活習慣が関係していることを説明する。さらに、感染や遺伝が原因であることも押さえられるようにする。</li> </ul>



○指導の流れ

時数	教科等	単元等	ねらい
1 / 5	保健体育科 保健分野	健康な生活と疾病の予防 「生活習慣病などの予防」 (生活習慣病の予防)	人間の健康は生活行動と深く関わっており、調和のとれた生活を続けることが必要であることを理解する。
2 / 5	特別活動	医師による がんに関する講話	がんについての正しい知識を習得し、理解を深める。
3 / 5	保健体育科 保健分野	健康な生活と疾病の予防 「生活習慣病などの予防」 (がんの予防)	がんの特徴と要因を知り、がんを予防するために必要な今後の自分の生活習慣について考えることができる。
4 / 5	道徳科	生命の尊さ	がんを題材として授業を展開し、生命の尊さについて考えることができる。
5 / 5	特別活動	がん経験者による がんに関する講話	がん患者に対する正しい認識と、健康と命の大切さについて理解を深める。

○3 / 5 保健体育科 保健分野指導展開例

※ 保健体育科教諭と養護教諭によるTT例 (T1:保健体育科教諭、T2:養護教諭)

学習の流れ	留意点												
<p><b>【導入】</b></p> <p>○ がんの特徴や要因についてのクイズに解答しながら復習する。 (例) がん細胞 がんの要因 (生活習慣病等) がんの現状 など</p> <p>※参考となるスライド教材</p> <p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>がんの予防法について理解し、今後の生活への向き合い方について考えて、説明しよう。</p> </div> <p><b>【展開】</b></p> <p>○ がんのリスクを軽減させるために、自分の生活習慣について振り返る。 ①がん予防に関するスライド教材等から、がん予防の原則を知る。</p> <p>※参考となるスライド教材</p>	<p>○ 授業前に実施された医師の講話で扱われた内容を踏まえて、がんの特徴や要因についての知識をクイズ形式で確認し、理解が不十分な知識については教師が補足説明する。(T1)</p> <p>○ 身近な人をがんで亡くしている生徒や身近にがん患者がいる生徒に対して配慮をしながら授業を行う。また、ゲームのような雰囲気のないクイズにならないよう進める。</p> <p>○ がんについての知識を確認する。(T2) ※状況に応じてスライド教材等を使用</p> <p>○ 本時のねらいを板書し、意識化を図る。がんは誰にでも発症のリスクがあるため、自分事として考えるよう指導する。(T1)</p> <p>○ がん予防の原則について、スライド教材等を用いて説明する。(T1)</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>がんを防ぐための新12か条</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1条 たばこは吸わない</td> <td>7条 適度に運動</td> </tr> <tr> <td>2条 他人のたばこの煙を避ける</td> <td>8条 適切な体重維持</td> </tr> <tr> <td>3条 お酒はほどほどに</td> <td>9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療</td> </tr> <tr> <td>4条 バランスのとれた食生活を</td> <td>10条 定期的ながん検診を</td> </tr> <tr> <td>5条 塩辛い食品は控えめに</td> <td>11条 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を</td> </tr> <tr> <td>6条 野菜や果物は不足にならないように</td> <td>12条 正しいがん情報でがんを知ることから</td> </tr> </table> </div> <p>《参考 がんを防ぐための新12か条》</p>	1条 たばこは吸わない	7条 適度に運動	2条 他人のたばこの煙を避ける	8条 適切な体重維持	3条 お酒はほどほどに	9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療	4条 バランスのとれた食生活を	10条 定期的ながん検診を	5条 塩辛い食品は控えめに	11条 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を	6条 野菜や果物は不足にならないように	12条 正しいがん情報でがんを知ることから
1条 たばこは吸わない	7条 適度に運動												
2条 他人のたばこの煙を避ける	8条 適切な体重維持												
3条 お酒はほどほどに	9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療												
4条 バランスのとれた食生活を	10条 定期的ながん検診を												
5条 塩辛い食品は控えめに	11条 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を												
6条 野菜や果物は不足にならないように	12条 正しいがん情報でがんを知ることから												

- ②自分自身の生活習慣をチェックしたうえで、今後がんにならないための課題と計画について、その理由を含めて記述する。
- ③小グループで、がん予防のための各自の問題と計画を発表し、意見や考えを出し合う。
- ④小グループ内での話し合いやがん予防新12か条を踏まえて、各自で考えた計画案を見直し、再整理する。

○がん検診の必要性を確認する。  
※参考となるスライド教材



【まとめ】

○ 本時の振り返りをする。

- ワークシートに記入させる。(T1)
- がん予防新12か条を示し、ワークシートを活用しながら支援する。(T1)
- 自分のこととして捉え、グループで話し合いを行えるように指示する。自分のこととして適切に捉えられていない生徒には、がん予防新12か条をもとに、自分の生活を考えるよう助言する。(T1、T2)
- 小グループごとに良い計画をホワイトボードに記入させる。(T1)

- 検診について話をする。(T2)
  - 生活習慣に気を付けていてもがんになる可能性があることから、がん検診の大切さを押さえる。(T2)
- ※状況に応じてスライド教材等を使用

- 適切な生活習慣を身に付けることが、がんの予防に有効であること、それを生徒が自分のこととして捉えられるように、まとめる。(T1)

《ワークシートの例》

ワークシート

年 組 番 名前

ねらい：

メモ欄：

★がん予防のための生活習慣チェック★

1 最近1か月の生活を振り返りましょう。

評価例 ○ △ ×

項目	内容	評価
食生活	朝食を毎日食べている。	
	栄養バランスの良い食事をしている。	
	食事の量は、適切である。	
運動習慣	体育の授業は、積極的に参加している。	
	体育の授業以外に、自分から意識的に運動をしている。(筋力トレーニング、散歩等)	
睡眠・疲労	睡眠時間は7時間程度に取れている。	
	身体的疲労が続くことはない。	
	精神的疲労が続くことはない。	
自己の体調管理に対する意識	体調が悪いときには、その原因を考えている。	
	食生活を見直したり、改善しようとしていたりしている。	
	運動習慣を見直したり、改善しようとしていたりしている。	
	疲労やストレスを感じたときに、原因を考え改善しようとしている。	
受動喫煙	人が吸ったたばこの煙を吸ってしまうことがない。	

2 課題解決型の手順に従って考えよう。

(1)解決方法の選択 生活習慣チェックを見て課題を把握し、解決する方法を考えてみよう。

課題	解決法
例：父親が吸ったたばこの煙を吸っている。	別の部屋に行く。外で吸ってもらう約束をする。など
①	
②	
③	

(2)計画の立案 (1)で考えた方法を実行する計画を立てましょう。(今自分ができること)

例：家族会議を開き、吸う場所を決めてリビングに掲示する。(チェックしたり、記録したりすることを書く。) 今日帰ったら、父親にたばこの害を伝え、禁煙外来のパンフレット渡し、やめてもらう。など

参考にした計画

※他の人の意見を聞いて、参考にしたと思ったものがあったら色ペンなどで付け加えましょう。

★本時の振り返り★

○指導の流れ

時数	教科等	単元等	ねらい
1 / 5	保健体育科 保健分野	健康な生活と疾病の予防 「生活習慣病などの予防」 (生活習慣病の予防)	人間の健康は生活行動と深く関わっており、調和のとれた生活を続けることが必要であることを理解する。
2 / 5	特別活動	医師による がんに関する講話	がんについての正しい知識を習得し、理解を深める。
3 / 5	保健体育科 保健分野	健康な生活と疾病の予防 「生活習慣病などの予防」 (がんの予防)	学習した知識を活用して、がんの予防方法を考えることができる。
4 / 5	家庭科	衣食住の生活 「食事の役割と中学生の栄養の特徴」	がん予防の可能性のある食品を取扱い、健康によい食習慣について理解する。
5 / 5	特別活動	がん経験者による がんに関する講話	がん患者に対する正しい認識と、健康と命の大切さについて理解を深める。

○3 / 5 保健体育科 保健分野指導展開例

学習の流れ	留意点
<p><b>〔導入〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の授業や医師による講話に触れ、がんについて喚起する。</li> <li>○ 生活習慣とがんについて、医師による講話の内容を振り返って、どのようなものがあったかあげる。</li> </ul> <p>※参考となるスライド教材</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習内容、めあてを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>がんを予防するためにできることを考え、これからの生活に役立てよう。</p> </div> <p><b>〔展開〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ がん予防の視点からゲストの先生方に生活改善をアドバイスする。 (流れ)             <ol style="list-style-type: none"> <li>① アドバイスのために必要な情報を話し合う。 (喫煙習慣、飲酒習慣、食生活、運動習慣、検診、その他)</li> <li>② ゲストティーチャーにインタビューして必要な情報を得る。</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文部科学省のスライド資料を活用し、がんと生活習慣の関係性を理解させるとともに、よりよい生活習慣が、がん予防(将来がんになりにくくする)につながることも理解させる。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な人を病気等で亡くしている生徒の表情をしっかりと把握する。</li> <li>※年齢や生活の様子が異なる教員にゲストとしての協力を依頼しておく。(3人程度)</li> <li>○ 机間指導しながら、グループでの意見交換の様子を把握する。</li> </ul>

- ③ ゲストティーチャーの生活の改善点や改善策をグループで話し合う。
- ④ ゲストティーチャーにアドバイスする。
- ⑤ ゲストティーチャーの感想を聞く。

**【まとめ】**

- 自分自身の生活を振り返りワークシートにまとめる。

- 話し合った内容を短い言葉でホワイトボード等にかかせる。
- 班ごとにホワイトボードを黒板に貼り、ゲストティーチャーにアドバイスさせる。
- 分かっている行動に表せるかどうかは別であることにも気付かせる。

- 生活習慣の乱れががんを引き起こす要因になる（生活習慣に気を付けていても、がんになる可能性があることも）ことをおさえる。
- 「自分の健康は自分で守る」ことを意識させる。また、家族への生活習慣のアドバイスもできることを意識させる。（先生方の感想を参考に、うまく取り組むためのポイントを考えさせる）

《ワークシートの例》

ワークシート

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

めあて

～がんを予防するためにできることを考え、これからの生活に役立てよう～

がん予防の視点から先生方に生活改善をアドバイスしよう。

Step1 先生達にアドバイスするために、生活習慣についての質問事項をグループで考えよう！

( ) 先生

Step2 ( ) 先生の話聞きながら、生活習慣をメモしよう！

Step3 インタビュー（質問事項）をもとに、気を付けて欲しいことやより良い生活にするための改善策を考えよう！

※代表者は発表用のホワイトボードに改善策を簡潔書きで記入しましょう！

授業のふりかえり

授業を終えて、分かったことや今後に生かしたいこと

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

## 2 高等学校展開例

### 高等学校展開例 1

#### ○指導の流れ

時数	教科等	単元等	ねらい
1 / 4	保健体育科 科目「保健」	現代社会と健康 「生活習慣などの予防と回復」 (生活習慣病とその予防)	生活習慣病とその原因となる生活習慣について理解し、正しい生活習慣や健康診断の必要性について説明できる。
2 / 4	保健体育科 科目「保健」	現代社会と健康 「生活習慣などの予防と回復」 (がんについて)	がんの発生や日本の現状について理解し、がんを身近な問題として捉えることができる。
3 / 4	保健体育科 科目「保健」	現代社会と健康 「生活習慣などの予防と回復」 (がんについて)	がんの原因と予防法を理解し、一次予防や二次予防の必要性について説明できる。
4 / 4	特別活動	医師による がんに関する講話	がんについての正しい知識を習得し、理解を深める。

#### ○3 / 4 保健体育科 科目「保健」指導展開例

学習の流れ	留意点
<p><b>〔導入〕</b></p> <p>○ 前時の復習と本時のねらいを確認する。</p> <p>がんの原因や予防方法について説明できる。 がん検診の必要性について説明できる。</p> <p>※参考となるスライド教材</p> <p><b>〔展開〕</b></p> <p>○ がんの原因について理解する。</p> <p>発問1 がんにならないためにできることは何だろう (ワークシートに記入)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①男性のがんの原因から生活習慣ががんの発生に影響していることを理解する。</li> <li>②望ましい生活習慣について考える。</li> <li>③生活習慣以外の男性のがんの原因及び女性のがんの原因から、細菌やウイルスによる感染もがんの原因であることを理解する。</li> <li>④がんの要因には遺伝や原因不明なものもあり、完全に防ぐことはできないことを理解する。</li> </ol> <p>※参考となるスライド教材</p>	<p>○ 授業の内容に関して、つらくなったり気分が悪くなったりしたら、声をかけるように伝える。</p> <p><b>がんによる死亡数</b></p> <p>3人に1人ががんで亡くなっている がんによる死亡数は増え続けている</p> <p><b>主ながんの種類</b></p> <p>多くのがんががんになる可能性があふ</p> <p>○ 主ながんの種類から連想される生活習慣を考えさせ、ワークシートに記入させる。</p> <p>※スライド教材による説明</p> <p>○ がんの主な原因の一つが生活習慣であり、生活習慣を整えることでがんのリスクを軽減できることを説明する。(リスクが無くなるわけではないところに注意する。)</p> <p>○ 生活習慣以外の原因についても詳しく説明する。</p>

- がん検診の大切さについて理解する。
  - ①がん検診を受けることでがんの早期発見ができることを理解する。

発問2 早期発見(I期)をすることでどれくらいの方ががんを治すことができるだろうか。(ワークシートに記入後グループ内で話し合い発表する)  
4 択 ( 95% 65% 35% 0% )

- ②がんの進行と5年生存率から早期発見の大切さを理解する。
- ③がん検診の受け方や種類、検診の受診率が低いことを理解する。

※参考となるスライド教材

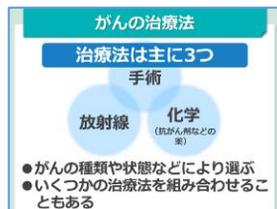


発問3 がん検診を受けないというAさんがどのようにしたら検診を受けるようになるかを考え、Aさんに適切なアドバイスをしてみよう。(ワークシートに記入後、グループ内で話し合い発表する)

Aさん 健康には十分気をつけていて自信がある。身内にがんになっている人はいないし、自分もがんにならないと思っている。体調が悪くなってから病院へ行けば問題ない。そもそも検診の受け方が分からない。

- がんの治療法を知る

※参考となるスライド教材



[まとめ]

- 本時の学習を振り返る。

発問4 本時の授業を受けて、今後あなたのできるがんに対しての適切な行動についてまとめてみよう。(ワークシートに記入後、まとめた内容を発表する。)

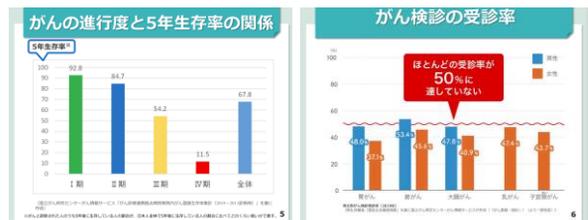
- がんを防ぐための新12か条を確認する。

- がん検診を受けることで早期発見ができることを説明してから発問2に移る。

- 個人でワークシートに記入させた後、グループ内で話し合い、答えを一つにまとめて発表させる。

※スライド教材による説明

- 早期発見により、ほとんどのがんを治すことができるので、早期発見の重要性を認識させる。
- がんの種類によって治る可能性が違うことも触れる。



- がん検診を受けないAさんへのアドバイスを考えさせる。
- 記入した内容についてグループ内で話し合い、全体に発表させる。

※スライド教材による説明

- がんの治療法について説明する。
- ※詳細についてはがん講話で説明があることを伝える。

- 本時のまとめをワークシートに記入させる。
- 数名の生徒にまとめた内容を発表させる。

- がんを防ぐための新12か条を説明し、がんの予防を再確認する。

## 《ワークシートの例》

1年 組 番 氏名

1. がんにならないために私たちにできることは何だろう

--

2. がんの原因

主ながんの原因は \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_ であり、  
なかには \_\_\_\_\_ のものもある。

↓  
がんを100%防ぐ方法は \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ を受診して  
\_\_\_\_\_ することが大切！

3. がんを早期発見(Ⅰ期)することで、どれくらいの人のがんを治すことができるだろうか。

①95%②65%③35%④0% 4択から1つを選び、予想欄に番号と選んだ理由を記入しよ

予想	選んだ理由	正解

【補足】 自覚症状が出るころ(Ⅲ期)の \_\_\_\_\_ は \_\_\_\_\_ %程度であり、  
気づいたときには \_\_\_\_\_ になる場合もある。

4. がん検診の受け方

① \_\_\_\_\_ … \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_ ) で受診する。

➡ 予約は直接 \_\_\_\_\_ へ問い合わせる。

② \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_ や \_\_\_\_\_ で受診する。

➡ 予約は \_\_\_\_\_ の健康増進課などの窓口から行う。

5. がん検診を受けない人Aさんがどのようにしたら検診を受けるようになるかを考え、適切なアドバイスをしてみよう！

--

6. がんの治療法は主に \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_ であり、がんの種類や  
状態などにより選ぶ。いくつかの治療法を \_\_\_\_\_ こともある。

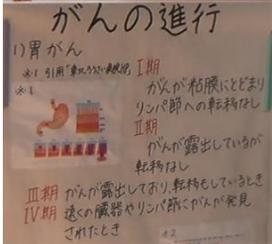
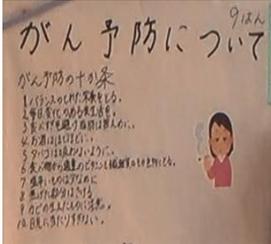
7. 今後、あなたにできるがんに対する適切な行動についてまとめてみよう！

--

○指導の流れ

時数	教科等	単元等	ねらい
1 / 4	保健体育科 科目「保健」	現代社会と健康 「生活習慣などの予防と回復」 (生活習慣病とその予防)	生活習慣病の発病や進行の概要、早期発見・早期治療の重要性について理解する。
2 / 4	保健体育科 科目「保健」	現代社会と健康 「生活習慣などの予防と回復」 (がんについて)	グループ(3~4人)ごとにパソコンを使用し、がんについての調べ学習を行い、理解を深める。 ※調べ学習の時間数は状況に応じる。
3 / 4	保健体育科 科目「保健」	現代社会と健康 「生活習慣などの予防と回復」 (がんについて)	がんについて正しく理解し、自分の生活を振り返るとともに社会的対策の重要性についても理解する。
4 / 4	特別活動	医師による がんに関する講話	がんについての正しい知識を習得し、理解を深める。

○3 / 4 保健体育科 科目「保健」指導展開例

学習の流れ	留意点
<p><b>〔導入〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習内容について確認する。</li> <li>○ 本時のねらいを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>個人として自分たちがどのようなことを心がける必要があるのか。また、社会的な取組としてどのようなことが重要であるのかまとめてみよう。</p> </div> <p><b>〔展開〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時に作成したがんについて調べた内容をまとめた模造紙を活用し、グループごとに発表する。</li> </ul> <p>(1グループ5分)</p> <p>3分 発表 ↓ 1分 グループごとに質問や感想を話し合う ↓ 1分 質疑応答・感想</p> <p>テーマ別(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A) がんとはどういうものか</li> <li>B) がんはどのように進行していくのか(症状も含めて)</li> <li>C) 日本と世界のがんの比較</li> <li>D) がんの種類について(男女別、年齢別も含めて)</li> <li>E) がんの予防について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習内容を説明し、ねらいを確認する。</li> <li>○ 発表させるグループ数については、授業時間やテーマ数により調整する。 ※本指導例は、全12グループのうち6グループに発表をさせる展開 なお、発表しないグループの資料は、掲示や配布などにより他グループに周知を図る方法がある。</li> <li>○ あらかじめ決めてある発表順でグループごとに発表させる。</li> <li>○ 発表グループ以外のグループは、ワークシートに記入させる。</li> <li>○ 発表後、1分間でグループごとに意見交換を行い発表グループ以外のグループに質問や感想を発表させる。</li> <li>○ 発表ごとに指導者から良かった点、改善点や補足説明、ポイントなどを助言する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">《参考 生徒がまとめた模造紙の例》</p>

<p>F) がんの検診について ※どのサイトから引用したのかも発表する。</p> <p>[まとめ]</p> <p>○ 個人や社会的取組についてワークシートへ記入する。</p> <p>○ 本時のまとめ</p>	<p>○ 引用文献についても触れさせる。</p> <p>○ 発表後に緩和ケア、治療方法についてもふれる。 ※詳細については専門医の講話があることを伝える。</p> <p>○ 本時で学んだことを通して、個人でどのような行動が大切なのか、また、社会的取組として重要であることなどのまとめや感想をワークシートへ記入させる。</p> <p>○ 本時の学習内容についてまとめを行い、がんは誰にでも起こりうること、生活習慣の見直しが大切であることなどを理解させる。</p>
---	--

### 《ワークシートの例》

○グループ活動記載用

発表グループ	班					
テーマ						
学んだこと						
評価	1	2	3	4	5	(悪い1 ← 3 → 良い5)
感想						

○個人のまとめ記載用

○個人として、自分たちがどのような行動を心がける必要があるのか、また社会的な取組としてどのようなことが重要であるのかまとめてみよう！

○指導の流れ

時数	教科等	単元等	ねらい
1 / 4	保健体育科 科目「保健」	現代社会と健康 「生活習慣などの予防と回復」 (生活習慣病とその予防)	生活習慣病の種類や予防、定期的な健康診断の重要性について理解する。
2 / 4	保健体育科 科目「保健」	現代社会と健康 「生活習慣などの予防と回復」 (がんについて)	がんの種類や原因及び生活習慣病と関連の深いがんについて理解する。
3 / 4	特別活動	医師による がんに関する講話	がんについての正しい知識を習得し、理解を深める。
4 / 4	保健体育科 科目「保健」	現代社会と健康 「生活習慣などの予防と回復」 (がんについて)	がん患者や家族との共生について理解し、命の大切さについて考えることができる。

○4 / 4 保健体育科 科目「保健」指導展開例

学習の流れ	留意点
<p><b>【導入】</b></p> <p>○ 本時の学習内容とねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>がん患者の家族の立場でグループワークを行い、がん患者との共生を考える。</p> </div>	<p>○ 今の自分ではなく、今の自分の親の立場をイメージさせる。</p> <p>○ 身近な人をがんで亡くしている生徒や身近にがん患者がいる生徒に対して配慮をしながら授業を行う。</p>
<p><b>【発問】</b></p> <p>グループ員を兄弟姉妹と仮定します。今のあなたは40代で、あなた達の母（又は父）が70歳でがんを発症しました。治療方針について医師から二つの提案を受けました。限られた時間の中で兄弟姉妹と相談し、治療方針を決断しなければなりません。あなたは、どんな選択をしますか？</p> <p>☆医師からの提案</p> <p>①手術ができればかなりの確率で治るので、手術と抗がん剤治療を並行して行う。 ただ、手術にはかなり危険が伴うこととその後の体力が持つかどうかが問題である。</p> <p>②治らないが、手術は行わずに現状の状態を長く保つための治療に専念する。 ただし、どのくらい現状を維持できるか不明である。</p>	<p>※発問は、教師自身が実際に経験した内容にする とまとめにおける展開がしやすい。</p>
<p><b>【展開】</b></p> <p>○ グループ分け</p> <p>○ 進め方の確認</p> <p>○ グループワーク</p>	<p>○ できるだけ簡潔に要点をまとめて説明する。</p> <p>○ 生徒の表情などにも気を付けながら、各グループの支援を行う。</p>

【参考 進める上でのルール】

- ・グループは5人組（8班）
- ・グループで司会役（長女又は長男役）を決める。
- ・必ず全員の意見を聞いた上で議論を進める。
- ・10～15分で必ず結論を出す。（理由も含めて）
- ・結論の出し方は自由とする。（多数決でも、司会役の意見でも）

- 発表  
（司会役が白板に板書しながら発表するとわかりやすい）

【まとめ】

- がん患者やその家族への共感的理解のもと共生について考える。

- 大切な人に早期のがんが発見されたと仮定し、どう心を寄せていくかメッセージを作成する。  
※発表はなし

- 発表の理由で気になることがあったら確認する。

- 教師自身の体験談を語り、より身近な健康問題として捉えられるよう説明する。この授業展開では、この説明が重要となる。

【参考 体験談等内容】

- ・今回のグループ設定の状況が、実際に教師が経験した内容であること。
- ・実際に家族ががんに罹患して、家族の一員として何ができるか考えたこと。
- ・がんとの向き合い方は様々で、治すことを目指すばかりではない場合もあること。
- ・この話を聞いて、がん患者やその家族の気持ちに少しでも共感が持てるきっかけになってほしいこと。

- 大切な人は、自分以外の誰でもよいことを説明する。

《メッセージカードの配付》  
“大切なあなた（○○）へ”

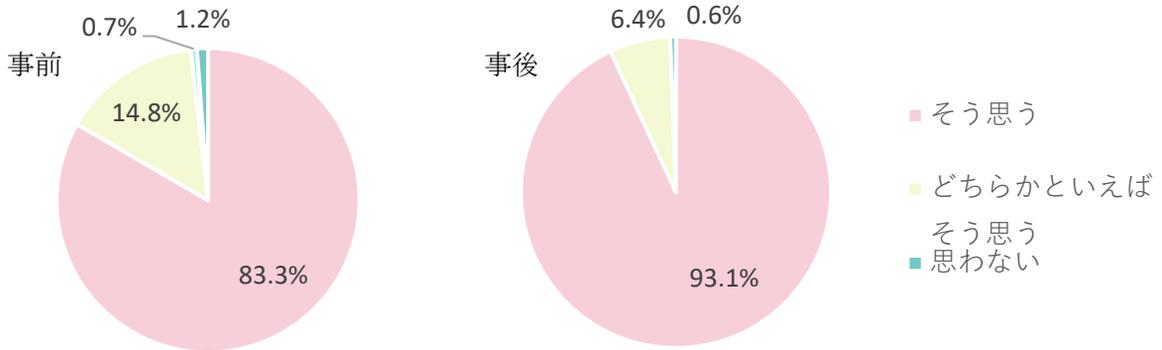
【メッセージ内容例】

○○がんは早期発見で治る見込みが大きいから、焦らず治療していきましょう。  
○○という治療法であれば、働きながら治療を続けることができるから職場へ相談しようよ。  
家のことは心配しないで治療に専念して。私が、お母さんを手伝うから。  
など

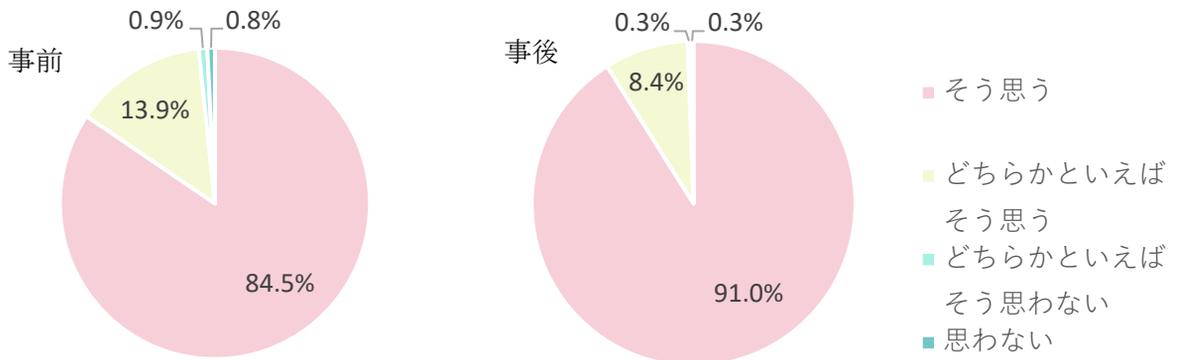
### Ⅲ がん教育の成果

#### 1 実施校におけるアンケート集計結果

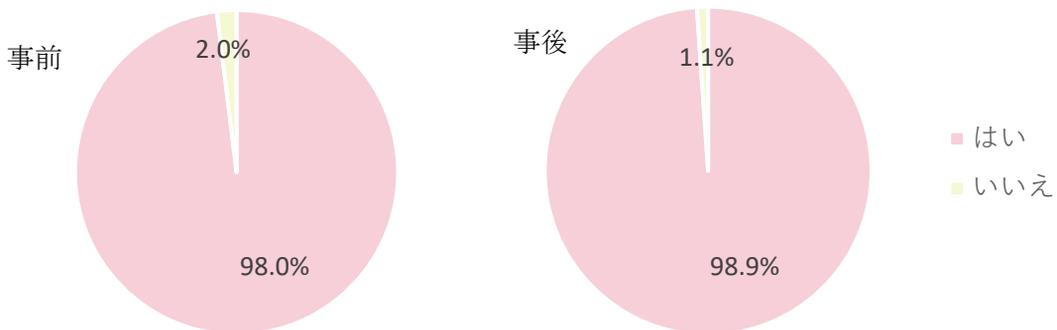
Q がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ



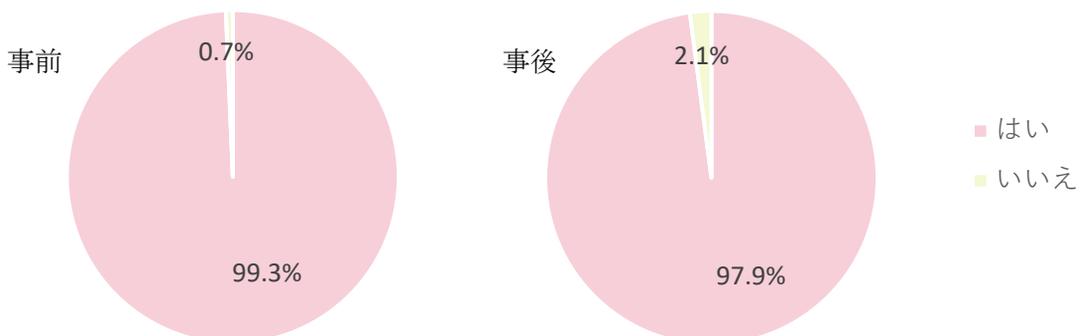
Q がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ



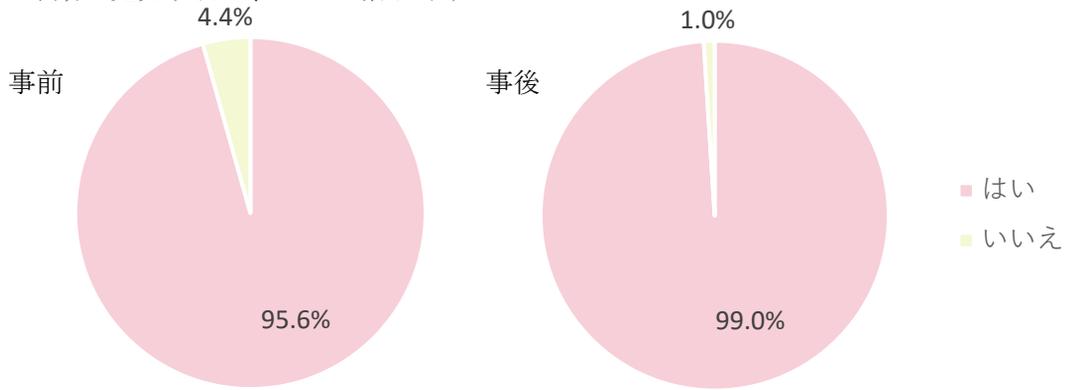
Q がんは誰もがかかる可能性のある病気である



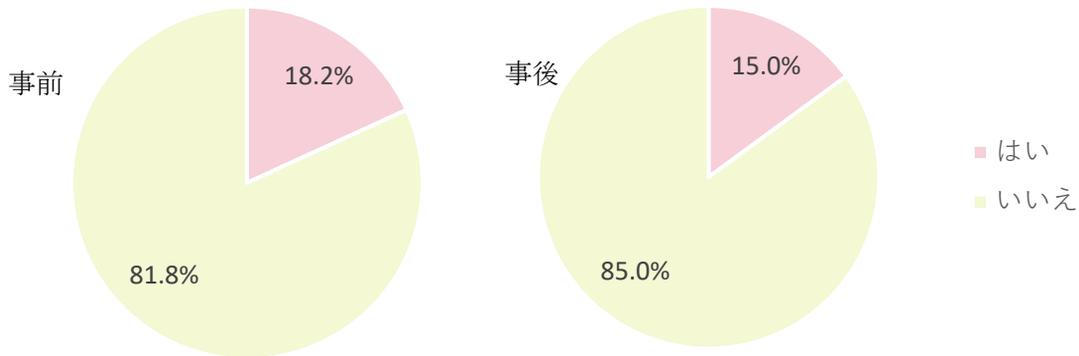
Q がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある



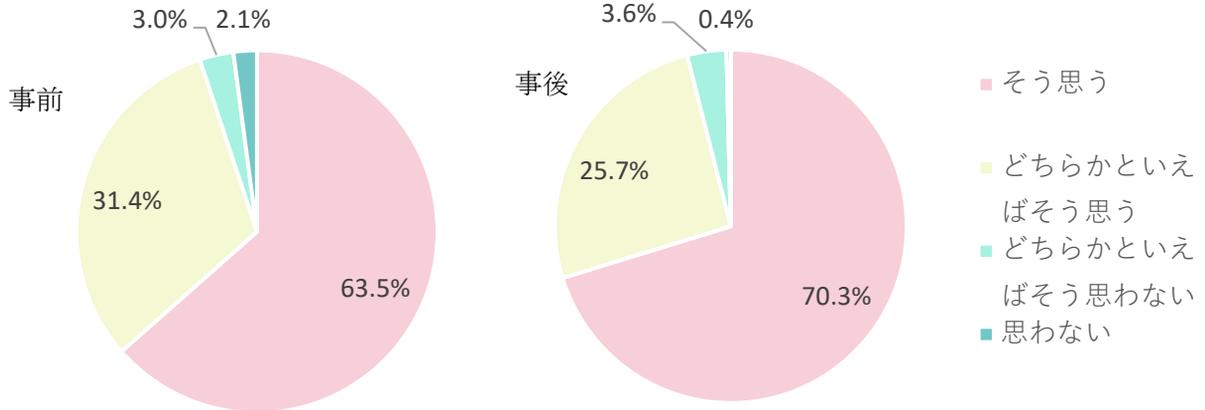
Q 早期に発見すれば、がんは治りやすい



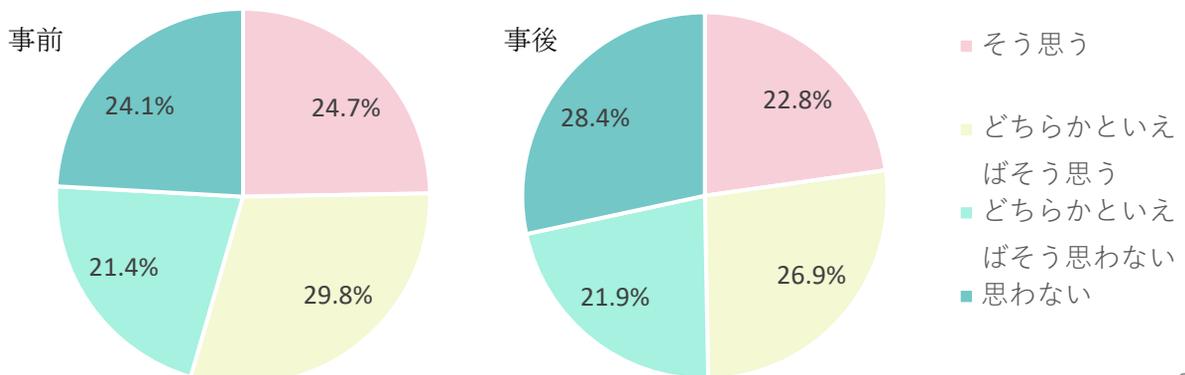
Q がんの治療法には手術による治療しかない



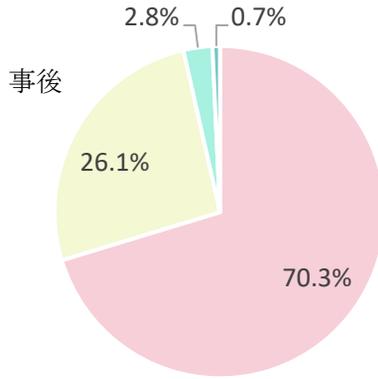
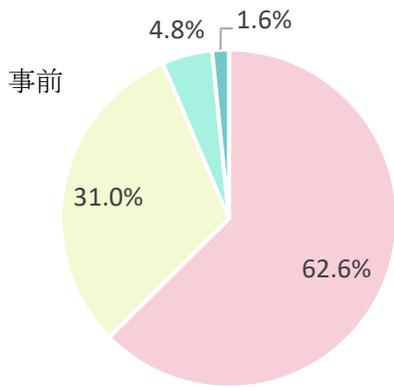
Q 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う



Q がんの治療法はいくつかあるが、医師が決めるものである

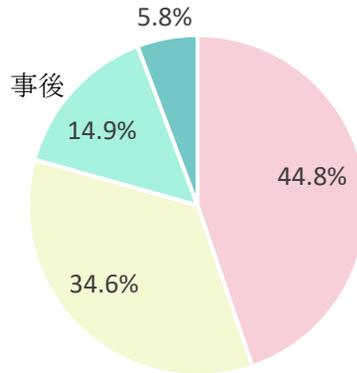
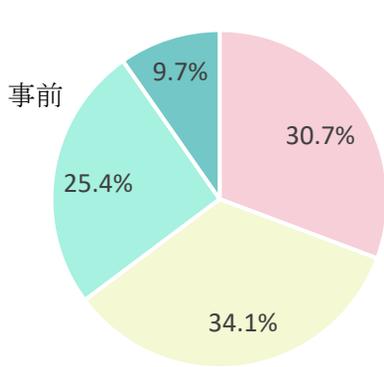


Q がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う



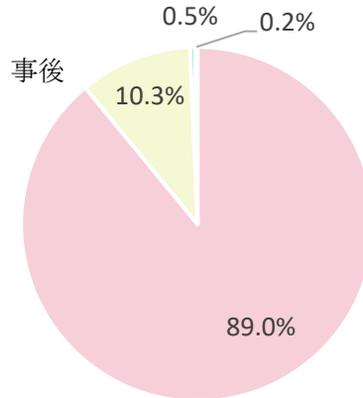
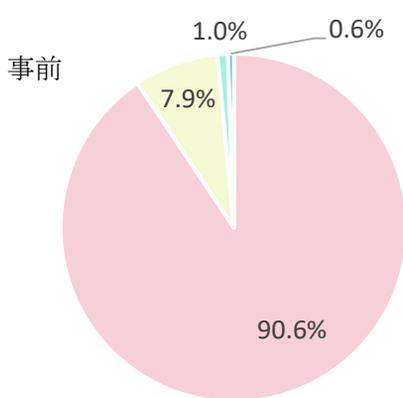
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- 思わない

Q がんになっても生活の質を高めることができる



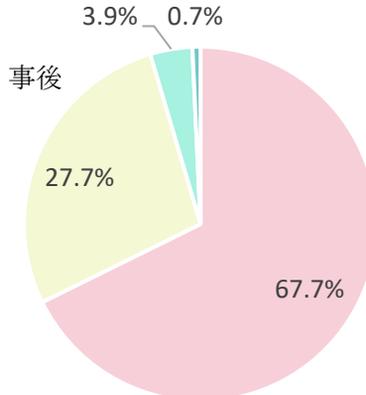
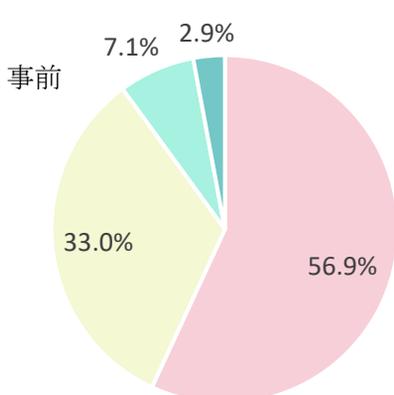
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- 思わない

Q 家族や身近な人は健康であってほしいと思う



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- 思わない

Q がんや健康について、身近な人や家族と話してみようと思う



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- 思わない

## 2 外部講師による講話後の生徒の感想

### がん専門医による講話後の感想

- 今までは、ほとんどが遺伝的なものだと思っていたけれど、突発的かつ原因が分からないものがあるものがあることを知り、イメージが変わりました。
- 前までは、がんはたくさんのたばこやお酒を吸ったり飲んだりしている人だけがなる病気と思っていたけど、今回の講話でそのような人以外にも栄養の偏った食事ばかり食べる人などもがんになってしまう人もいることを知りました。
- がんは、自分にとってあんまり身近なことではないと思っていました。でも、講話を聞いて自分が思っていたよりずっと身近で、自分自身もがんになり得る可能性があるということを知ることができました。この経験を将来大人になった時に活かせたら良いなと思いました。
- がんは、「一度なったら治らない病気」というイメージから、前もって予防をしたり、早期に検診を受けることで、「治る可能性が高くなる病気」というイメージに変わりました。
- がんを予防するには、正しい生活習慣がとても大切であることが分かりました。今回学んだことを生かして、家族や身近の人にアドバイスができるようになりたいです。

### がん経験者による講話後の感想

- 乳がん経験者のお話は、とても貴重なお話ばかりでした。そして、がんには後遺症もあり、それを気使ってくれる家族はとても素敵だなと思いました。今回のお話を聞き、私も普段から生活習慣を整えて生活したいです。
- 私の祖母も乳がんになってしまったので、すごく身近に感じる講話でした。私の見えないところで苦しんでるかもしれない考えると、祖母だけでなく、がん患者さんのためにできることをしていきたい。また、がんになるかもしれない自分や家族のために今からできる予防をしていきたい。
- 今後の生活を大切にしていきたい。また、自分だけでなく家族や大切な人にもがん検診の大切さを教えたいと思いました。
- がんについて正しい知識を得ておくことは、罹患した時に慌てずに対応できると思いました。また、治療の時に生きる希望を持つことは、大きな力になることも知りました。
- 身内にも病気を患っている人がいるから、これまで以上にサポートをしていきたいと思いました。そして、日頃から健康に気を使ってがんになるリスクを減らして生活したいと思いました。
- もしがんになっても、ただ落ち込むだけでなく、周りの人に頼ったりがん相談支援センターなども活用してがんについて詳しく理解したいと思いました。
- 改めて 父や母、祖父がどんな気持ちで治療を受けていたのかを考えさせられました。

## IV 指導参考資料・教材

### 1 がん教育推進のための教材（文部科学省）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1369992.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369992.htm)

### 2 がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1385781.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm)

[小学校版]

- ・映像教材 がん博士の「がんについての基礎知識」（6分35秒）
- ・映像教材 「がんと生きる」エピソード1：がん経験者男性（5分25秒）
- ・映像教材 「がんと生きる」エピソード2：がん経験者女性（5分06秒）
- ・ワークシート

[中学校・高等学校版]

- ・スライド教材モジュール1：がんという病気（15スライド）
- ・スライド教材モジュール2：日本のがんの現状（12スライド）
- ・スライド教材モジュール3：がんの発生と進行（16スライド）
- ・スライド教材モジュール4：がんの予防（13スライド）
- ・スライド教材モジュール5：検診の意味（12スライド）
- ・スライド教材モジュール6：がんの治療で大切なこと（11スライド）
- ・スライド教材モジュール7：がん治療の支援（14スライド）
- ・スライド教材モジュール8：がん患者の思い（5スライド）
- ・スライド教材モジュール9：がん患者と共に生きる社会（13スライド）

### 3 外部講師を活用したがん教育ガイドライン（文部科学省）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1369991.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369991.htm)

### 4 がん教育に関する映像教材（栃木県教育委員会）

【生徒向け映像教材】

<https://tochigi-educenter.box.com/s/c7qsba2v6f632e8l2di3nucyxmz7jbnb>

【教職員向け映像教材】

<https://tochigi-educenter.box.com/s/dno4wemvguafgxp302f6i0s2pf1cv4p7>

## 作成協力等

### ● 引用及び参考文献

- ・ 小学校学習指導要領（平成29年告示） 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示） 文部科学省
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年告示） 文部科学省
- ・ 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 文部科学省
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編・体育編 文部科学省
- ・ 学校におけるがん教育の在り方について（報告）〔平成27年3月〕  
「がん教育」の在り方に関する検討会
- ・ 外部講師を用いたがん教育ガイドライン〔令和3年3月一部改正〕 文部科学省
- ・ がん教育推進のための教材〔令和3年3月一部改訂〕 文部科学省
- ・ がん教育推進のための教材 指導参考資料 文部科学省
- ・ 「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き〔平成31年3月〕 文部科学省

### ● 栃木県がん教育推進連絡協議会委員（平成30年度～令和2年度）

- 浅井 秀実 栃木県医師会 副会長
- 井上 浩一 栃木県立がんセンター統括診療部放射線治療科 科長
- 久保 元芳 宇都宮大学共同教育学部 准教授
- 磯 由香 がんサバイバー
- 栗原みどり あげぼの栃木（乳がん患者会） 代表
- 出口 伸雄 足利市立西中学校 校長（平成30年度）
- 若杉 俊明 栃木県立宇都宮東高等学校 校長（平成30年度）
- 島田 稔 栃木県立宇都宮東高等学校 教諭（平成30年度）
- 小林 理香 栃木県立宇都宮東高等学校 養護教諭（平成30年度）
- 阿嶋 敬一 下野市立南河内第二中学校 校長（令和元年度）
- 柏瀬 和彦 足利市立毛野中学校 校長（令和元年度）
- 飯塚 晃代 栃木県立佐野東高等学校 校長（令和2年度）
- 渡辺 徹 栃木県立さくら清修高等学校 校長（令和2年度）
- 須藤 秀幸 足利市教育委員会事務局学校教育課 課長（平成30、令和元年度）
- 田澤 孝一 下野市教育委員会事務局学校教育課 課長（令和元年度）
- 村上 幸男 栃木県保健福祉部健康増進課 課長（平成30年度）
- 柏瀬 仁 栃木県保健福祉部健康増進課 課長（令和元、令和2年度）
- 柳田 伸二 栃木県教育委員会事務局義務教育課 課長（令和元、令和2年度）
- 中村 千浩 栃木県教育委員会事務局学校教育課・高校教育課 課長（平成30、令和元年度）
- 吉田 眞樹 栃木県教育委員会事務局高校教育課 課長（令和2年度）
- 伊澤 純一 栃木県教育委員会事務局学校安全課 課長（平成30、令和元年度）
- 佐瀬 学 栃木県教育委員会事務局学校安全課 課長（令和2年度）

● 栃木県がん教育推進協議会委員（令和6年度）

久保 元芳 宇都宮大学共同教育学部 准教授  
井上 浩一 栃木県立がんセンター統括診療部放射線治療科 科長  
栗原 みどり あげぼの栃木（乳がん患者会） 代表  
服部 洋一郎 武田薬品株式会社ジャパンファーマビジネスユニット  
流通・地域アクセス統括部地域アクセス戦略グループ セールスマネジャー  
大牧 稔 矢板東高等学校 校長  
梶木 英彦 栃木農業高等学校 主幹教諭  
渡邊 晶子 宇都宮女子高等学校 養護教諭

○ 事務局（令和2年度）

栃木県教育委員会事務局  
学校安全課保健・給食担当  
秋元 崇 課長補佐・GL  
和田 直子 副主幹  
稲葉 聖 副主幹  
山口由樹子 指導主事  
平山 貴子 指導主事  
渡邊 浩昭 指導主事  
石田 睦美 主査  
本村 優衣 主事

○ 事務局（令和6年度）

栃木県教育委員会事務局  
健康体育課学校保健・給食担当  
那須野 親 課長補佐・GL  
渡邊 哲郎 副主幹  
金野 智絵 指導主事  
泉 聡美 主査  
栃木県保健福祉部健康増進課  
がん・生活習慣病担当  
稲見 啓 係長・TL

栃木県がん教育ガイドライン

令和3（2021）年2月発行  
令和7（2024）年3月改訂

事務局 栃木県教育委員会事務局健康体育課  
〒320-8501  
栃木県宇都宮市塙田1-1-20  
TEL 028-623-3418  
FAX 028-623-3574

VERY   
GOOD  
LOCAL

---

とちぎ